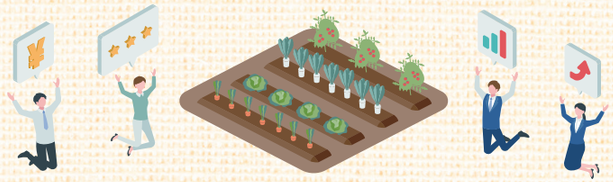
未来に向けた取り組み
事業部紹介シリーズ 5

写真や図表で見る
全農のいま

耕種総合対策部
耕種資材部

主な事業内容
- 生産拡大・品質向上に向けた技術・商品開発
- 幅広い生産資材の調達と供給

パッケージ提案のメニューをテーマ別にご紹介します!



耕種総合対策部・耕種資材部は、2030年の目指す姿の実現に向けた全体戦略の一つである「生産振興」について、多岐にわたる取り組みを展開しています。

前回紹介した「販売・営農・資材一体パッケージ提案」のメニューについて、耕種総合対策部と耕種資材部が取り組みを進めている事例をテーマごとに紹介します。

スマート農業提案

●Z-GIS・ザルビオフィールドマネージャー

「Z-GIS」は、ほ場とエクセルの情報をひも付けて管理するクラウド型システムです。管理するほ場規模が拡大する中で、栽培情報を電子地図上で体系的に管理でき、作業効率化につながります。

「ザルビオ」は、ほ場の情報を解析し、最適な管理情報を提供する栽培管理支援システムです。人工衛星の画像をもとに、ほ場の地力ムラ・生育ムラを確認でき、AIによる生育・病害予測により、施肥や防除・水管理の判断にも役立ちます。

収量・品質向上提案

●土づくりと適正施肥

生産基盤である土壌の生産力を維持・向上させるために、地力向上など「土づくり」の取り組みを進めています。

また、全国にある土壌分析センターなどを用いて、土壌診断に基づく「適正施肥」により、生産コストの低減を進めるとともに、異常気象に備えた土壌、施肥管理を提案していきます。

省力化提案

●水田用自動給水機「アクアポート」

「アクアポート」は、稲作の水管理を楽にする自動給水システムです。センサーで田んぼの水位を感知し、ゲートを自動で開閉することで給止水します。「アクアポート」の導入により水管理の省力化が可能なのはもちろんのこと、水管理の精度向上にもつながります。

●水稲直播栽培技術「リゾケアXL」

「リゾケアXL」は、水稲直播(ちょくは)栽培における新技術であり、種子に苗立ちを安定化させる酸素供給剤や殺虫殺菌剤がコーティングされ、初期生育の課題解決が期待できます。直播栽培は移植栽培に比べ省力的であるため、全農は生産規模拡大などを目指す生産者に「リゾケアXL」を提案していきます。

資材コスト低減提案

●担い手直送規格農薬

「担い手直送規格農薬」は、従来あった1㌶用の製品よりも大きな容量の製品です。容量の大型化によるスケールメリットに加え、受注生産やメーカー直送などの工夫により低コスト化を実現し、普及面積が拡大しています。

●共同購入コンバイン

大型トラクター、中型トラクターに続き、第3弾としてコンバイン(4条刈り・50馬力クラス)の共同購入に取り組んでいます。生産者の需要をとりまとめ、一括発注・仕入れを行うことで、購入価格の低価格化を実現しました。

現場の課題に対して、販売・営農・資材をセットでご提案することで、産地振興を進めていきます!

全農 ZEN-NOH　JA全農事業ビジョン2030はこちら

全農では様々なパッケージ提案に係るメニューをご用意しています!
詳しくは全農HPより内容をご確認ください!
https://www.zennoh.or.jp/about/future/productionpromotion/costs/

次回は畜産総合対策部、「国産畜産物のおいしさをお届けします」
8月18日(月)掲載予定